

【 検 査 】**4 5 1 輸血前検査における血液型検査の算定について****《令和 7 年 2 月 2 8 日》****○ 取扱い**

- ① 輸血前検査におけるD011「1」A B O血液型及びR h（D）血液型の算定は、原則として一連の輸血につき1回認められる。
- ② 血液型加算（A B O式及びR h式）の算定は、原則として一連の輸血につき1回認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

A B O血液型は、抗Aと抗B試薬を用いて受血者の赤血球のAとB抗原の有無を調べる検査（オモテ検査）と、既知のAとB赤血球を用いて受血者の血清中の抗Aと抗B抗体の有無を調べる検査（ウラ検査）である。R h（D）血液型は、抗D試薬を用いてR h D抗原の有無を調べる検査である。

同一の医療機関で実施した同一患者に対する複数回の血液型検査は通常1回で十分だが、血液疾患の治療においては、造血幹細胞移植により血液型が変わることがある。

また、A B O血液型が異なる輸血（血液型不適合輸血）を実施した場合、チアノーゼや血圧低下等のショック状態により死に至ることがある。したがって、一連の輸血における本検査1回の実施は、血液型不適合輸血を防止する点から重要である。

以上のことから、上記①の検査及び②の加算の算定は、原則として一連の輸血につき1回認められると判断した。

なお、輸血の反復の必要性が明らかな場合はこの限りではない。